

第3章

環境保全には万全を期しています

○消費者に何よりの安心をお届けします

光沢加工業界では長年、「環境にやさしい」「PP貼りはリサイクルできます」といった標語を使いながら、環境配慮型の加工技術の開発に取り組んできています。「環境社会の実現に万全を期している」と、自信をもっていえるほどです。

今では、環境に配慮した資材(原材料)、機械設備、加工工程を確立し、さらには産業廃棄物のリサイクルや再資源化を実現しています。とくにリサイクル事業に関しては、「光沢加工会社から排出される古紙や廃フィルムは、ほとんど再生紙や再生プラスチック製品、固形燃料にリサイクルされる」といわれるほどになっています。

光沢加工業界では、このような自主的な目標基準を設けて、独自に環境問題に取り組んでいるのですが、環境循環型社会への貢献度を印刷業界、出版業界はもちろん、広く一般社会にアピールしていきたいと考え、塗料調達に関する「光沢サービスグリーン基準」まで制定しています。

「印刷物に光沢加工すると環境に悪影響を及ぼす」といった懸念は、もはや無用となっています。PPは燃やしても有害ガスを発生させず、通常の可燃ゴミとして扱えるほど、安全かつ衛生的な素材なのです。地球にやさしい環境づくりに、幅広い視点で寄与しています。

○廃棄物処理と再生化に取り組んでいます

技術革新が進んだ今、光沢加工で使用されているPP(ポリプロピレン)はきわめて良質な素材です。そもそも光沢加工とは、製品の耐久性、耐水性を高めて長持ちさせるために開発された技術です。地球資源の消費やゴミの排出量を減らすことのできる、本質的に「環境にやさしい」ものなのです。

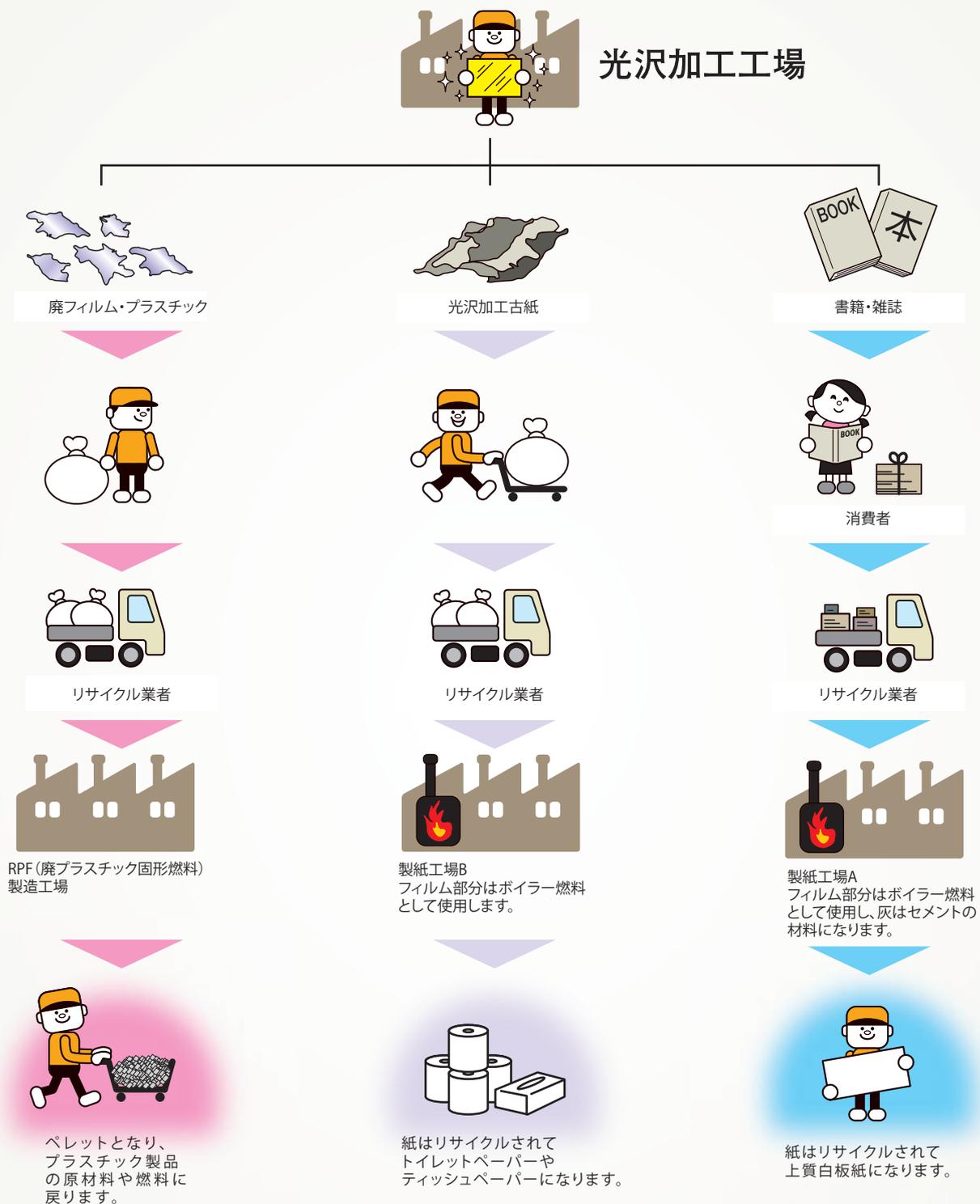
光沢加工された印刷製品は、使用后、どのように再資源化されるのでしょうか。古紙はトイレットペーパーやティッシュペーパー、白板紙などの再生紙として、また、光沢加工の材料である樹脂や廃フィルムは、プラスチック製品や古紙と混合させた固形燃料として使われます。

光沢コート、プレスコート加工された印刷物は、とくに分離しなくても、そのまま再生紙としてリサイクルできます。また、PPなどをラミネート加工した印刷物については、紙と分離することで、それぞれが再生可能となります。

PPは燃焼発熱量が高いため、通常の可燃ゴミとして扱っても問題ありません。燃やしても安全で、クリーンなエネルギー源として活用できます。完全燃焼する性質があり、灰も残らないため燃料にすることが可能なのです。

近年、接着剤が塗布されたサーマルフィルムが

光沢加工古紙はリサイクルが可能です



普及しています。各事業所ではPPフィルムを紙に貼るための専用の接着剤を使わずに済むため、VOCの削減につながっています。プレスコートで100℃以上必要とされる加工時の温度も、紫外線硬化型樹脂を使うUVラミコートでは、常温にまで下げることができますし、VOCを完全に削減可

能となっています。

光沢加工業界では、循環型社会の実現に向けて環境問題には“人一倍”配慮していますので、実際おこなっている取り組みの一端を以下にご紹介しましょう。このほかにも、PPバンド、トイレトペーパーなどの再生製品を組合として共同購入

し、各事業所の工場や得意先に配布することで、リサイクルに貢献するという事業もおこなっています。

■ グリーン調達基準

印刷産業の一員として社会的責任を果たすため、業界自身の指針として「光沢加工サービスグリーン基準」を策定しています。この基準は、組合に加盟する各事業所が印刷物光沢加工サービスをおこなうときは、①購入資材、工程、印刷および印刷関連業者の取り組みに関する「グリーン原則」、②具体的な調達基準としての「グリーン基準」一を遵守することを求めています。このグリーン基準には、以下のような2段階の目標水準があり、具体的な数値を定めることで「VOCの発生を抑制できる環境にやさしい塗料」を認定しています。

● 水準-1 業界がめざすべき高度な基準

無溶材化(UV塗料及びサーマルフィルム使用を含む)またはアルコール類濃度5%未満で使用すること

● 水準-2 業界が方向として広くめざすべき基準

アルコール類を使用時30%未満で使用すること

■ リサイクル事業

光沢加工業界では、①産業廃棄物の不法投棄の撲滅、②産業廃棄物の処理費用の低減、③「光沢加工古紙はリサイクルできる」という社会的認識の獲得——を目的に、各事業所から排出される光沢加工古紙、廃プラスチック類を、再生製品の原料や燃料として再資源化するリサイクル事業を展開しています。

加工古紙は白板紙へ、剥がしたフィルムはボイラー燃料として使用したあとのセメント材料へと、ゼロエミッションでリサイクルするという活動をおこなっています。

○ 安全性には絶対の自信があります

PPフィルムはPE(ポリエチレン)と同じように、炭素と水の2元素から構成されている高分子化合物で、ポリオレフィン等に分類されています。完全燃焼させれば、空気中の酸素と結びついて、CO₂と水に分解されます。素材そのものからダイオキシンが検出されることはありません。もちろん、有毒なガスを発生することもなく、きわめて安全なのです。

PPフィルムは、無味・無臭・無毒であることから、私たちが直接口にする食品の包装材料として広く使われているものです。厚生労働省の容器包装規格基準をクリアした、安全で衛生的な素材として認められています。

